

小学校4年「地域の産業遺産を調べよう～養蚕と製糸」

群馬県安中市立第二中学校 教諭 大木 利治

この実践は、2006～2008年に群馬県安中市立白井小学校（旧 群馬県碓氷郡松井田町立白井小学校）で行った学習活動をまとめたものである。

I はじめに

近年、新しい文化財の概念として「産業遺産」が注目されているが、学校教育で技術史を学習内容とし、地域の「産業遺産」を取り上げた実践は、工業高校や中学校技術科などでこれまで既に行われてきている。ここでは、小学校における実践を報告したい。

従来、江戸時代以前のものに重点を置いてきた文化財行政は大きく転換してきており、1990年度から文化庁の指導により、各都道府県で順次「近代化遺産総合調査」が進められてきた。1996年度には「登録有形文化財」の制度が導入され、調査の進展とともに数多くの「産業遺産」が有形文化財に登録されるようになってきた。この調査や文化財登録は建築物に偏ったものとなっているが、「碓氷峠鉄道施設」（信越本線碓氷峠の丸山変電所、碓氷第三橋梁、隧道などの一連の鉄道施設）が産業遺産としては初めて国の重要文化財に指定されたり、「富岡製糸場と絹産業遺産群」が世界遺産候補地として暫定リスト入りするなど、年々「産業遺産」に対する人々の関心や重要文化財の指定が増えている。

また、それぞれの地域でも、近代におけるその地域の人々の営みを示すものとしての「産業遺産」の保存と活用に対する意識は高くなってきている。これらは、いずれも地域の人々の生活に密着し、その生涯と深いかかわりのある生きた文化財である。また、「産業遺産」は、どこの町や村にも存在しており、総合的な学習の時間における児童生徒の調査対象として適していると言える。「産業遺産」は、エネルギーの供給、材料の搬入、加工・生産、製品の搬出という生産のシステム全体における位置づけが重要であり、このようなシステム全体を踏まえた全体像の把握が必要である。そのことにより、地域の産業遺産に対する総合的な理解が一層深まることになる。

II 実践の概要

1 単元について

「産業遺産」の調査を通じて、子どもたちは居住する地域の産業の歩みを、自分の父母や祖父母の生活や生涯と結びつけながら生き生きと理解することができると考えている。

「地域の産業遺産を調べよう～養蚕と製糸」を題材にして、私たちの地域には養蚕と製糸に関するさまざまな産業遺産があることを知り、これらを調べることによって、それらが果たしてきた役割を理解したり、それらをつくった先人の働き、苦心、願い、人々の生活の変化を知ることができ、さらに産業遺産が伝えるものの意味や価値に対する理解を深めることができると考える。

2 指導の構想（70時間予定）

（1）指導方針

- 実物を確かめたり、実験・実習・見学することなどを積極的に行いながら学習が進められるようにする。
- 調べた内容を子どもたち自身が自分で理解でき、伝えることのできる文章としてまとめ、表現

していくようにする。

- 産業遺産の所在地が確認できるように、地図等を活用する。
- 調べていくときの情報の収集には、書籍、インターネットの他にも、冊子、パンフレット、DVD、ビデオなど、できるだけさまざまなメディアを活用できるようにする。
- 学習内容が活用できるようにWebページにまとめる。
- 社会科、国語科の関連する学習内容と整合性をはかっていく。

(2) 指導計画

時間	主な学習活動	評価項目
20	<p>1 学期 6月～7月</p> <p>○蚕を飼育して繭から生糸をとろう。 (蚕種→蚕→繭)</p> <p>観察ノート、デジタルカメラなどで蚕の飼育を記録(蚕種から児童10人が約1500頭の蚕を飼育)</p>       <p>○蚕の糸で「団扇」をつくろう</p> 	<p>○蚕を飼育することにより、蚕の生育の記録や特徴、飼育に必要な道具や器具の役割を把握することができる。</p> 
20	<p>2 学期 9月～12月</p> <p>○飼育した蚕がつくった繭から生糸をとろう (繭→生糸)。</p> <p>○生糸のとりかた(繰糸技術)の歴史を調べよう。</p> <p>○稲の穂先で索緒箒(ミゴ箒)づくり</p> <p>○「手挽き」で繭から生糸をとってみ</p>	 

よう。(索緒箒(ミゴ箒)を使用)
 ○生糸の手挽きで巻き取った繰糸枠をランプシェードにしよう
 ○屑繭から真綿をつくろう。

○「上州座繰器」で繭から生糸をとってみよう。

○「碓氷製糸農業協同組合」の製糸工場を見学。自動繰糸機による生糸の生産や製糸の工程を調べよう。



25

○養蚕の技術について調べよう。
 (養蚕方法、養蚕のための道具類、養蚕農家の家屋の特徴)

○世界遺産学校キャラバン(群馬県世界遺産推進室、富岡製糸場世界遺産伝道師協会)の協力で「富岡製糸場と絹産業遺産群」の概要について学習する。

○養蚕の道具類を実際に見てみよう。
 養蚕農家の「テンソー(ヤグラ)」をさがしてみよう。

「養蚕農家」「稚蚕飼育所」の見学

○地域には、養蚕と製糸に関するさまざまな産業遺産があることを知り、これらを調べることによって、それらが果たしてきた役割を理解する。また、それらをつくった先人の働き、苦心、願い、人々の生活の変化を知ることによって、産業遺産が伝えるものの意味や価値を考えることができる。



○組合製糸の碓氷社と官営富岡製糸場について調べよう。

○「富岡製糸場」「旧 碓氷社本社事務所」の見学

「安中市ふるさと学習館」で碓氷社に関する資料を見学、「富岡市立美術博物館」で甘楽社、下仁田社、富岡製糸場に関する資料を見学

○「群馬県立日本絹の里」で絹の染色と手織織の実習

○草木染め（マリーゴールド）の実習
3学期

1月～3月

○伝統行事の「まゆ玉」（だんご）づくり

○生糸と日本の産業について調べてみよう。

○繭と生糸の輸送に重要な役割を果たした「碓氷峠鉄道施設」について調べてみよう。

○「碓氷峠鉄道施設」を見学



○学習したことをWebページにまとめよう。

5

○調べまとめた結果を、みんなにプレゼンテーションする。

○プレゼンテーションについて意見交換し、適切な活用だったか振り返る。

○Webページを公開し、情報の発信と伝達を行う。



○調べてわかったことや感じたことを、わかりやすく発表して伝えることができる。

○産業遺産を調べることによってわかった、地域の人々の願いを考え、産業遺産の価値を理解するとともに、それらを大切に伝えていくことの意義を感じ取ることができる。



